

# 都市再生整備計画(第4回変更)

ほくりくしんかんせん かり じょうえつえきしゅうへん ちく  
北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区

新潟県 上越市

平成23年12月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	上越市	地区名	ほ(りくしん)かんせん(かり)じょうえつえきしゅうへんち(北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区)	面積	376 ha
計画期間	平成	19	年度	～	平成	23	年度
				交付期間	平成	19	年度
					～	平成	23
							年度

### 目標

- 大目標: 上越の新しい玄関口にふさわしい魅力的な都市づくり  
 目標1: 市街地環境を改善し、誰もがいきいきと働き、暮らせる拠点を形成する  
 目標2: 土地利用の効率化、乗換円滑化を実施し、交通結節機能を高め、駅を中心に様々な人の出会い、触れあいの拠点を形成する

### 目標設定の根拠

- まちづくりの経緯及び現況  
 ・本地区は、上越市の南部に位置する、北陸新幹線の(仮称)上越駅を中心とする地区である。  
 ・矢代川流域の標高15m～30mの比較的平坦な地域であり、現在は、その大部分を農地(水田)が占めており、市街地は主要道路沿道に形成されている。  
 ・北西部には上信越自動車道上越高田インターチェンジがあり、新幹線新駅の設置とあいまって、今後、広域交通の利便性が飛躍的に向上することが期待されている。  
 ・このため、上越高田I.C及び新幹線新駅を核に、豊かな自然環境を生かしながら、良好な都市空間の形成を図っていくことが求められており、これまでも様々な調査検討がなされてきた。  
 ・本地区の中核となる「新幹線新駅地区土地区画整理事業」は、JR信越本線脇野田駅を中心とした約28.5haの地区における事業であり、信越本線の移設、北陸新線新駅(仮称)上越駅の設置などと一体的に、上越地域の新たな玄関口にふさわしい街づくりを進めていこうというものであり、平成17年3月に事業計画の認可を受けた。  
 ・その後実施された埋蔵文化財調査により、区画整理事業区域西側で釜蓋遺跡が発見された。当該遺跡は、佐渡を除く新潟県では初めて発見された平地の環濠集落の遺跡であり、遺跡公園としての整備が予定されている。  
 ・これに伴い、この遺跡を地域の貴重な資源として保全・活用すべく、土地区画整理事業の見直しを進めてきたところである。

- ・新駅周辺の都市基盤の整備: 市の新たな顔づくりに向け、新駅を中心に土地区画整備事業、信越本線の移設、駅前広場、駅舎・自由通路の整備などを一体的に行う必要がある。  
 ・魅力的な都市機能の誘導: 駅周辺では賑わいのある魅力的なまちづくりを行うため、交通結節機能を強化しながら、商業・業務機能、情報交流機能等、多様な都市機能等を誘導する必要がある。  
 ・新駅周辺整備効果の周辺地域への波及: 新駅周辺整備の整備効果を周辺地域へも広く波及させるため、新駅へのアクセス道路など必要な都市基盤等の整備を推進していく必要がある。  
 ・遺跡の保全と活用: 釜蓋遺跡を保全するとともに、周辺に点在する他の遺跡との連携なども考慮しながら、まちづくりに積極的に活用していく必要がある。

### 将来ビジョン(中長期)

- 「自然と新産業・学術拠点が調和したまち」  
 ・「のびやか」プラン2001(平成13年9月、上越市)では、新幹線新駅周辺地域についての整備目標像を「自然と新産業・学術拠点が調和したまち」として、地域イメージを「妙高連山に抱かれた清らかな雪とみどり」としている。  
 ・また、地域づくりの方向として、「上越高田I.Cと新幹線新駅を核とした、豊かな自然に囲まれた本市のゲートウェイの一つの形成」、「背後に控える山並みや広大な田園などの自然と調和したまちづくり」の2つを設定している。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
生活道路に対する満足度	%	対象区域内住民へのアンケート調査に基づく、生活道路に対する満足度(全回答数に占める"やや満足"と"満足"の割合)	市道整備による効果を、アンケート調査による生活道路整備の満足度で確認する。目標値は「市民の声アンケート」(H17年度)の上越市の平均以上とする。	38.8	平成18年度	40	平成23年度
釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度	人/5年	遺跡に関するシンポジウムの参加者数	まちづくり受発信事業や釜蓋公園整備等による、釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心の高まり具合を、遺跡に関するシンポジウムへの参加者数により確認する。	0	平成18年度	400	平成23年度
住宅の新築軒数	軒/5年	対象区域内の住宅の新築軒数	下水道、市道等の都市基盤の充実による効果を、対象区域内の建物の新築件数で確認する。	99	平成18年度	120	平成23年度
まちづくり協議会等の開催数	回/5年	新駅周辺のまちづくりに関する、協議会、懇談会、勉強会、ワークショップ等の地域住民が参加する会議の開催数。	目標2を達成するための、住民参加によるまちづくりの活動の盛り上がり、まちづくりへの関心や参画意識の高まり度合いを確認する。	20	平成18年度	40	平成23年度

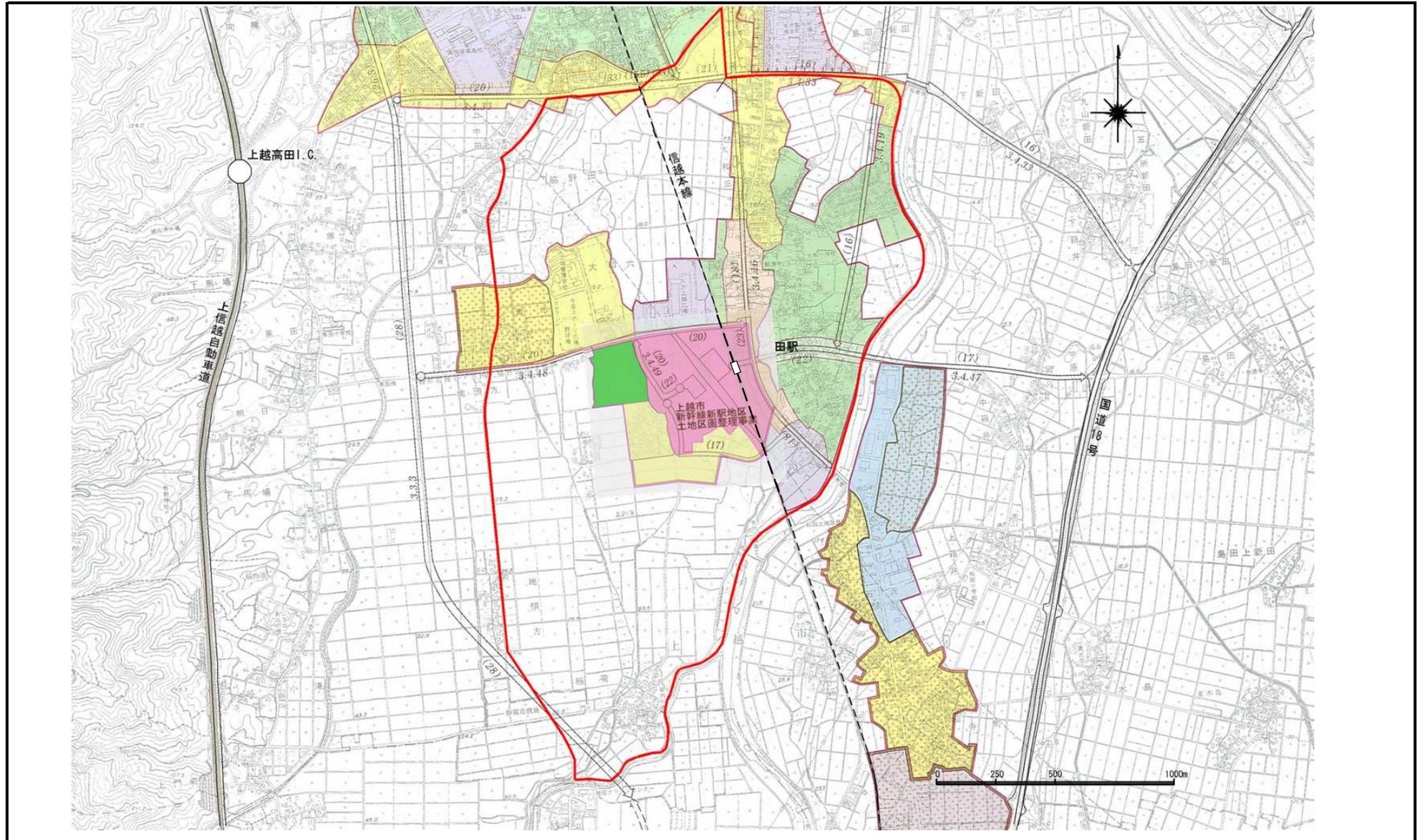
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(駅周辺の都市基盤の整備)</p> <p>・「新幹線新駅地区土地区画整理事業」を中心に、新駅周辺の道路、下水道等の都市基盤の整備を図る。</p>	<p>【基幹事業】</p> <p>下水道事業(汚水、雨水) 市道大和上中田線整備事業 市道大和二丁目5号線整備事業 市道大和二丁目3号線整備事業 市道大和二大和三丁目線整備事業 市道上門前大和線 東城町脇野田線整備事業(街路事業) 区画道路整備事業(区画整理地区内) 自由通路整備事業(高質空間形成施設) 駅前広場シェルター整備事業(高質空間形成施設) 調整池(地域生活基盤施設)</p> <p>【関連事業】</p> <p>新幹線新駅地区土地区画整理事業 脇野田岡原線整備事業(街路事業)</p>
<p>整備方針2(交通結節機能の強化)</p> <p>・北陸新幹線の建設にあわせて、信越線を移設し、一体駅として整備を行い、交通結節機能を強化する。</p>	<p>【提案事業】</p> <p>信越本線移設事業</p>
<p>整備方針3(釜蓋遺跡の保全と活用)</p> <p>・釜蓋遺跡を遺跡公園として保全(整備)するとともに、周辺の吹上遺跡、斐太遺跡などとの連携に配慮しながら、遺跡文化に対する理解を深めてもらうためのシンポジウムを開催する。</p>	<p>【提案事業】</p> <p>釜蓋遺跡公園整備事業</p>
<p>整備方針4(住民参加によるまちづくりの推進)</p> <p>・住民参加を積極的に推進し、地区計画、建築協定、景観協定などのまちづくりに関するルールづくりを行う。 ・多くの人に駅周辺のまちづくりに関心をもってもらうとともに、住民参加のまちづくりを促進するため、駅周辺のまちづくりのPRを行う。</p>	<p>【提案事業】</p> <p>街並み形成活動推進事業 まちづくり情報受発信事業 事業効果分析及びまちづくり方策検討調査事業</p>
<p>その他</p> <p>○新幹線新駅地区土地区画整理事業地区における住民参加と地区計画の策定等について 上越市では、土地区画整理事業の地権者を対象に、まちづくりに関する情報提供と意識啓発のため、定期的な懇談会を開催している。今後は、地権者とともに、地区計画の策定等に向け、定期的に勉強会等を開催していく。 その他住民参加のまちづくりについて 都市計画道路脇野田岡原線の整備に関しては、現在、対象地権者と協議を行いながら、その事業手法などについての詰めを行っている。今後は、街路整備後の街並み誘導などについて定期的に勉強会等を開催</p>	



都市再生整備計画の区域

北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区(新潟県上越市)	面積 376 ha	区域 大和1～6丁目の全部、今泉、脇野田、青木、荒町、上中田、地方頭、稲荷、高田新田の一部
-------------------------	--------------	--



## 北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区(新潟県上越市) 整備方針概要図

目標	大目標: 上越の新しい玄関口にふさわしい魅力的な都市づくり	代表的な指標	生活道路に対する満足度 ( % )	38.8	(18年度)	40	(23年度)
	目標1: 市街地環境を改善し、誰もがいきいきと働き、暮らせる拠点を形成する		釜蓋遺跡及び駅周辺まちづくりへの関心度 (人/5年)	0	(18年度)	400	(23年度)
	目標2: 交通結節機能を高め、駅を中心に様々な人の出会い、触れあいの拠点を形成する		まちづくり協議会等の開催数 (回/5年)	20	(18年度)	40	(23年度)

